

令和 8(2026)年度 リカレント選抜 学生募集要項

今後入学者選抜の日程や内容等に変更が生じる場合は、本学ホームページで周知いたしますので、出願後であっても随時確認するようにしてください。

本学ホームページ <https://www.nittai.ac.jp/index.html>

體 日本体育大学
Nippon Sport Science University

建学の精神（基本理念）の解釈・ミッション（社会的使命）・ビジョン（目標）

●建学の精神（基本理念：創立の想い、設置目的）

『^{たい} ^{いく} ^ふ ^{きょう} ^の ^{もとい} 體育富強之基』

真に豊かで持続可能な社会の実現には、心身ともに健康で、体育スポーツの普及・発展を積極的に推進する人材の育成が不可欠である。

本学は、その母体を明治24（1891）年に設立された体育会（翌年、日本体育会に改称）とし、この時、創設者日高藤吉郎が掲げた、「體育富強之基」（「体育は富国強兵の基本である」）を建学の精神としている。

昭和24（1949）年、日本体育大学体育学部設置に際し、国際平和の実現に寄与する国づくりを念頭に、その精神は、「体育は肉体をより強靱に富ます基礎である」と解されるようになった。

さらにその後、本学が創設以来、一貫して、スポーツを通じ、全ての人々の願いである“心身の健康”を育み、あわせて世界レベルの優秀な競技者・指導者の育成を追求し続けてきたことに鑑み、今日、この建学の精神（基本理念）は、上掲の通り、解釈が加えられている。

●ミッション（社会的使命：果たすべき役割、存在意義）

本学は、「建学の精神」の具現化、即ち、「体育・身体活動・スポーツを通じた健康で豊かな社会・人づくりの実現」のため、次の使命を果たす。

1. 体育スポーツ学、教育学、保健医療学分野における先駆的・実践的研究を通じて、人間の「活力ある身体」について、その真理を探究する。
2. 国際社会・地域社会において、先導的役割を担う有為な人材を輩出し、人類共通の願いである、幸福で豊かな社会の構築に資する。
3. スポーツ文化の深化・発展に努め、オリンピック・パラリンピックムーブメントの精神の実践・普及を推進し、スポーツのもつ様々な「力」を活用して、国際平和の実現に寄与する。
4. 高度な国際競技力を有し、他者の「生き方」モデルとなる優れたアスリートを育成するとともに、人間の心身の可能性（生命の輝きや身体の躍動など）を追究し、活力に満ちた社会の創生に貢献する。

●ビジョン（目標：目指すべき姿、将来像）

本学は、その社会的使命を果たすとともに、「身体に纏わる文化と科学の総合大学」として、かかる分野のリーディング・ユニバーシティを目指し、「教育」「研究」「社会貢献」について、次の目標を定める。

【教育】

人間の「活力ある身体」を熟知し、その多様性を受け容れ、地球市民として各分野で活躍できるグローバルリーダーを育成する。

そのため、教養及び専門的知識・技能の修得、涵養はもとより、コミュニケーション力（言語・表現力）、課題発見・解決力、創造的思考力などを身につけ、複眼的な視点をもって協働・共生のできる人材を養成する。

【研究】

真摯な基礎研究と課題解決に向けた実践的研究を高い水準で展開し、各専門分野の連携を図りながら、学際的研究に取り組むとともに、その成果を広く社会に発信する。

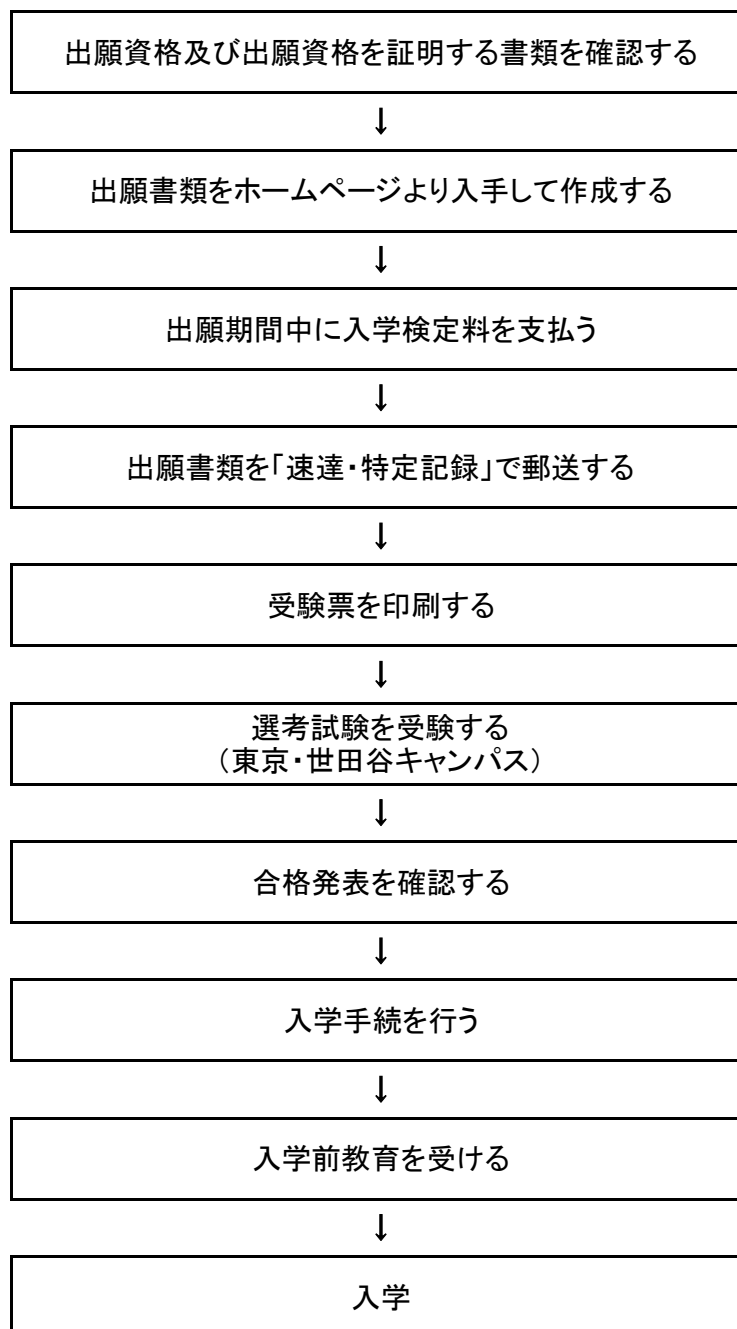
とりわけ、体育・身体活動・スポーツの実践から生じる諸問題について、人文科学・社会科学・自然科学の諸分野から総合的に分析・検討を加え、得られた新たな知見や解決法を実践現場に還元する双方向的研究活動を推進する。

【社会貢献】

あらゆるステークホルダーとの関係強化を図るとともに、国内外の諸機関との連携・協力関係を構築し、本学の教育・研究活動の成果、人的・知的財産などを還元する。

これにより生涯学習の機会を提供し、地域の教育、福祉の発展に貢献するとともに、大学と社会との「知と技」の好循環を創出することにより、地域社会の力を引き出す大学として、その拠点を形成する。

出願から入学までの流れ



志願者の提出書類について

出願にあたってお知らせいただいた個人情報は、入学試験、合格発表、入学手続及びこれらに付随する事項を行うために利用します。これらの業務の一部を本学より業務の委託を受けた業者に個人情報を提供する場合があります。

また、個人が特定されないように統計処理した情報を、今後の入学選抜及び広報活動のための調査に利用します。予めご了承ください。

体育学部が定める3つの方針

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

体育学部では、本学の「教育目標」に基づき、体育学・スポーツ科学・健康科学に関する専門教育並びに教養科目に関する共通教育を通じて、以下の資質・能力を獲得した学生に「学士（体育学）」を授与する。

1. 幅広い教養と専門分野の知識・技能
 - (1) 幅広い教養と専門分野（体育学・スポーツ科学・健康科学）に関する基礎的な知識・技能を体系的に身に付けている。
 - (2) 体育とスポーツ文化への理解をもち、体育・スポーツの発展に貢献できる人物になるための科学的知識・思考並びに実践力を身に付けている。
2. 汎用的能力
 - (1) 専門的知識を使って体育・スポーツ・健康に関する課題の発見・解決の方法を見出すことができる。（課題発見・解決能力）
 - (2) 現象を筋道を立てて思考し、課題解決のために科学的思考と規範的判断力を運用できる。（論理的思考力・規範的判断力）
 - (3) ICTをはじめとする多様な手段を使って情報を収集・分析し、日本語と外国語を使った高度なコミュニケーションができる。（リテラシー）
 - (4) 競技力向上から教育・健康・福祉まで、人々の多種多様な体育・スポーツ・健康への取り組みを専門的知見に基づいてサポートすることができる。（未来社会を構想・設計する力）
3. 態度
 - (1) 世界、日本、地域社会における様々な体育・スポーツ・健康の課題解決に向かって主体的に参画し、多様な活動を立案・運営できる。
 - (2) 共生社会の実現に向けて、様々な立場の人を尊重し、思いやりのある態度を取ろうとしている。
 - (3) 現実の社会生活において規範やルールを尊重し、高い倫理観を備えようとしている。
 - (4) 教養並びに専門的知識を活用しつつ自己への洞察を深め、生涯学び続けながら自己を大切に生きようとしている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

体育学部のディプロマ・ポリシーを踏まえ、カリキュラム・ポリシーを次のように定める。

1. 教育課程の編成
 - (1) 本学が果たしてきた歴史的・社会的使命を理解すると同時に我が国の体育・スポーツの歴史を知り、本学で学ぶ意味の醸成を目的として「日体大アイデンティティ科目」を設け、「日体大の歴史」及び「オリンピック・パラリンピック概論」を置く。
 - (2) 体育・スポーツにおける実践的指導力のみならず、広く社会一般で先導的役割を担うためのチームワークやリーダーシップ、コミュニケーション能力並びに規範的意識を養成するため、「日体大アイデンティティ科目」に「海浜実習」、「キャンプ実習」、「スキー実習」、「スケート実習」の4つの学外（野外）実習科目を設ける。
 - (3) 体育・スポーツの専門家として、また人権意識を持つ地球市民として各分野で活躍できる力を養うために「グローバルコミュニケーション科目」を設ける。
 - (4) 多様性を受け容れ、共生・共感的態度を持った体育・スポーツの専門家として幅広い教養を身に付け、生涯学び続ける態度を養うために「スポーツ教養科目」並びに「基礎教養科目」を配置する。
 - (5) 体育学の学門的専門性を養うために、体育学全般の基礎を扱う「研究ゼミナールA」を1年次に、各コースでの専門への導入を扱う「研究ゼミナールB」を2年次に、卒業研究のための基礎的研究活動を行う「研究ゼミナールCⅠ」を3年次前期、「研究ゼミナールCⅡ」を3年次後学期に配置する。卒業研究のための実践的研究活動を行う「研究ゼミナールDⅠ」を4年次前期、卒業研究を含む「研究ゼミナールDⅡ」を4年次後学期に配置する。以上の科目設置によって体育学の専門家としての段階的、体系的な能力向上を図る。
 - (6) 多様な社会や人材へ対応することができるよう「サブプログラム」を設ける。

【体育学科】

スポーツ科学に関する専門分野の知識・技能を身に付けるため、体育学科共通科目を設ける。

- (1) スポーツ科学専攻
競技スポーツを中心としたスポーツ科学における専門的知識と実践的応用力を養うために「アスリートプログラム」「スポーツコーチングプログラム」「競技サポートプログラム」を設ける。プログラム専門科目については、各プログラムで次のように配置する。

- ① アスリートプログラム
競技力向上に関する専門的知識と実践力を身に付けるため、アスリートに関わる専門的知識と実践力を養うためのプロジェクト科目を設ける。
 - ② スポーツコーチングプログラム
スポーツコーチングに関する専門的知識と実践力を身に付けるために、競技力向上のための実践力を養うためのプロジェクト科目を設ける。
 - ③ 競技サポートプログラム
競技サポートに関する専門的知識と実践力を身に付けるために、必要な専門科目と競技サポート実践力を養うためのプロジェクト科目を設ける。
- (2) スポーツ教育専攻
学校現場をはじめとして、体育・スポーツ実践に寄与できる高い専門性を備えた指導者を育成するために、「スポーツ教育プログラム」及び「特別支援教育プログラム」を設け、当該分野におけるより高度な知識と技術とが体得できるよう関連科目を配する。
- ① スポーツ教育プログラム
スポーツ指導者や保健体育科教員に必要な基礎的知識と実践力を身に付けるため、体育学・スポーツ科学・健康科学に加え、教育学、体育科・保健科教育法、スポーツ実践指導法に関する科目を設ける。
 - ② 特別支援教育プログラム
保健体育科教員に加え、特別支援学校教員としての専門知識と実践力を身に付けるため、特別支援教育に関わる総論と共に、免許領域(知的障害、肢体不自由、病弱)に関する科目を設ける。

【健康学科】

健康科学に関する専門分野の知識・技能を身に付けるために、健康学科共通科目を設ける。

- (1) ウェルネスライフ専攻
地域の幅広い年齢層を対象にした健康科学に関する専門分野の知識・技能を身に付けるために、ウェルネスライフ専攻共通科目を設ける。
- ① 地域健康サポートプログラム
明るい健康長寿社会の実現に向けて、地域住民の健康で安心な生活を支えるために必要な専門的知識と実践力を身に付ける。地域に根差した健康と福祉の増進に関する「地域健康サポートプログラム科目」を設ける。
 - ② 健康ウェルネスプログラム
健康長寿時代における自他の身体作りをサポートするための専門的知識と実践力を身に付けるために、医科学及び指導法に関する「健康ウェルネスプログラム科目」を設ける。
- (2) ヘルスプロモーション専攻
学校現場をはじめとして人々の健康の維持・増進に寄与できる高い専門性を備えた指導者を育成するためのカリキュラムとして「身体教育プログラム」「養護教諭プログラム」を設ける。プログラム専門科目については、各プログラムで次のように配置する。
- ① 身体教育プログラム
子どもや学校に関わる人々のヘルスプロモーションに必要な専門的知識と実践力を身に付けるため、身体活動と保健教育に関する「身体教育プログラム科目」を設ける。
 - ② 養護教諭プログラム
子どもや学校に関わる人々の健康の維持・増進に寄与できる高い専門性を備えた養護教諭に必要な専門的知識と実践力を身に付けるための「養護教諭プログラム科目」を設ける。

サブプログラム

以上のほか、多様な社会や人材へ対応することを目的に以下のサブプログラムを配置する。

- アカデミックプログラム
- 保健体育教諭養成プログラム
- アスレティック・トレーナー養成プログラム
- 航空産業プログラム
- モータースポーツ産業プログラム
- 留学生プログラム

2. 教育方法

- (1) 講義、演習、実技、実習をバランス良く組み合わせ、学生が主体的に学ぶための教育内容の充実を図る。
- (2) 科目及びプログラムの特性に応じて知識伝授型、グループワーク、集団討論、スポーツ実践の現場を対象とした演習などを展開し、学生の動機づけ、目的意識の向上、スポーツ科学理解の深化を促す。

3. 学修の評価

- (1) 各科目の到達目標と評価方法はシラバスに明示し、具体的な評価基準についてはルーブリックを作成する。
- (2) 学生自身が学修をふり返り、自己評価を行う機会を設ける。
- (3) 卒業研究によって提出された論文または制作物等から4年間の学修成果を総合的に評価する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

体育学部のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、アドミッション・ポリシーを以下に明示する。

【求める学生像】

1. 世界、日本、地域社会における様々な体育・スポーツ・健康の未来構想及び課題解決に関心のある人
2. 体育とスポーツ文化並びに健康への関心をもち、体育・スポーツの発展に貢献しようとする人
3. 他者と協調・協働し、課題解決や未来に向けて活動することに意欲を有している人
4. 体育学部で学修する上で、中等教育などで身につけるべき基礎学力を有している人
5. 体育・スポーツ・健康の専門的知見を基礎として、それらに関係する領域をはじめ広く社会で活躍したい人

【入学者選抜の種類】

入学者選抜にあたっては、高等学校などにおいて修得すべき知識・技能・思考力・判断力・表現力、主体性、協働性などを備えているか否かを評価するため、「総合型選抜」「学校推薦型選抜」「一般選抜」「特別選抜」など多様な選抜区分を設ける。

スポーツ文化学部が定める3つの方針

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

スポーツ文化学部では、本学の「教育目標」と本学が培ってきた伝統に基づき、我が国の体育・スポーツ界並びに来るべき社会を国際的にリードできる人材の育成を図るための独自の教育・研究プログラムを通じて、以下のような資質・能力を獲得した学生に「学士(体育学)」を授与する。

1. 幅広い教養と専門分野の知識・技能

- (1) 幅広い教養と、伝統に由来する体系化された「我が国固有の伝統スポーツ文化」である武道並びに伝統芸能に関連した科学的な知識と技能を身に付けている。
- (2) 武道並びに伝統芸能を通じて国際的に貢献するために必要な科学的な知識と技能を身に付けている。
- (3) 日本の精神文化に立脚した体育・スポーツを通じた国際的な社会的課題の解決に必要な知識と技能を身に付けている。

2. 汎用的能力

- (1) スポーツを通じた国際理解、国際平和の実現に向けて、適切に課題を解決することができる。(課題解決力)
- (2) スポーツを通じた国際理解、国際平和の実現に向けて、適切なコミュニケーションを営むことができる。(コミュニケーション能力)
- (3) 課題解決に必要な情報を収集、評価、活用できる。(情報収集力)

3. 態度

- (1) 主体性をもって多様な人々と協働し、スポーツを通じた国際理解、国際平和の実現に向けて取り組もうとしている。
- (2) 多様な他者の意見や思いを共感的に理解しようとしている。
- (3) 生涯にわたり新しい知識やスキルを積極的に身に付けようとしている。
- (4) スポーツの価値や礼節を尊重し、その実現に向けて責任をもって行動しようとしている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

スポーツ文化学部のディプロマ・ポリシーを踏まえ、カリキュラム・ポリシーを次のように定める。

1. 教育課程の編成

- (1) 本学が果たしてきた歴史的・社会的使命を理解すると同時に我が国の体育・スポーツの歴史を知り、本学で学ぶ意味の醸成を目的として「日体大アイデンティティ科目」を設け、「日体大の歴史」及び「オリンピック・パラリンピック概論」を置く。
- (2) 体育・スポーツにおける実践的指導力のみならず、広く社会一般で先導的役割を担うためのチームワークやリーダーシップ、コミュニケーション能力並びに規範的意識を養成するため、「日体大アイデンティティ科目」に「海浜実習」、「キャンプ実習」、「スキー実習」、「スケート実習」の4つの学外(野外)実習科目を設ける。
- (3) 多様性を受け容れ、共生・共感的態度をもって、地球市民として各分野で活躍できる力を養うために「グローバルコミュニケーション科目」を設ける。
- (4) よき市民及び国際人として身に付けるべき基本的な素養としての社会人基礎力と調和の取れた人間力を形成するため、学部共通科目に「教養科目」を設け、基礎教養に関わる科目と言語コミュニケーション科目を置く。
- (5) 体育・スポーツを通じて国際的な社会的課題を主体的に解決できる能力を育成するために、「総合科目」の中に研究科目を設ける。この科目群では、初年次に「スポーツ文化研究A」、2年次に「スポーツ文化研究B」、3年次に「スポーツ文化研究C・D」、4年次に「スポーツ文化研究E・F」を必修とし、課題解決力、コミュニケーション能力、情報収集力の段階的・体系的な能力の向上を図る。
- (6) スポーツ・健康科学並びにスポーツ指導の基礎的知識、技能、態度を修得するために、「基幹科目」、「展開科目」、「専門科目(体育実技)」を設ける。
- (7) スポーツを通じた国際貢献の基幹となる知識、技能並びに態度を習得するために「学科基礎科目」を設ける。
 - ① 武道教育学科
わが国固有の精神文化に立脚した体育・スポーツを中心にその内容を構成する。
 - ② スポーツ国際学科
海外の体育・スポーツを中心にその内容を構成する。
- (8) 体系的かつ専門的な学修を通じて体得した知識、技能等を総合的に活用するために「学科専門科目」を設ける。
 - ① 武道教育学科
武道教育、伝統芸能、体育指導などに関わる教養とスキルを向上させる科目を置く。
 - ② スポーツ国際学科
スポーツ国際交流、スポーツ支援、スポーツ国際開発援助などで今日的課題を実践的に解決する力を獲得するために、国際的な教養とスキルを向上させる科目を置く。

2. 教育方法

- (1) 講義、反転学習、ピア学習、課題探究型学習等を効果的に組み合わせることで、他者と双方向的に関わりながら主体的に学び、経験を積む姿勢、国や地域を越えて多様な価値観をもつ人々とコミュニケーションができる機会を提供する。
- (2) 課題探究型学習、フィールドワーク、収集したデータの協同的な分析、発表の機会を設定することで自らが学修を希望する専門領域にとどまることなく幅広い視野で隣接した学問分野に対する興味関心を高める機会を提供する。
- (3) 海外でのスポーツ文化交流や指導体験を通して、異文化理解を促進する機会を提供する。

3. 学修の評価

- (1) シラバスに示した評価規準に即して学修成果を評価する。
- (2) 学修成果は、最終テスト並びに授業過程において実施する小テスト、レポート、発表、実技試験等を踏まえて評価していく。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

スポーツ文化学部のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、アドミッション・ポリシーを以下に明示する。

【求める学生像】

1. スポーツを通じた日本国内外の社会的課題の解決に関心のある人
2. 体育・スポーツに関して、自己アピールできるものを持っている人や見つけたい人
3. 他者と協調・協働し、課題解決に向けた活動をすることに意欲のある人
4. 社会の規範やルールに従い、責任感をもって行動しようとする人
5. 多様な文化・価値観を学び、国・地域や国際社会で活躍したい人

【入学者選抜の種類】

入学者選抜にあたっては、高等学校などにおいて修得すべき知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性、協働性などを備えているか否かを評価するため、「総合型選抜」「学校推薦型選抜」「一般選抜」「特別選抜」など多様な選抜区分を設ける。

スポーツマネジメント学部が定める3つの方針

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

スポーツマネジメント学部では、本学の「教育目標」に基づき、体育スポーツ学、スポーツマネジメント学に関する専門教育並びに教養科目等に関する共通教育を通じて、以下のような資質・能力を獲得した学生に「学士(体育学)」を授与する。

1. 幅広い教養と専門分野の知識・技能

- (1) 幅広い教養と専門分野（体育スポーツ学、スポーツマネジメント学）に関する基礎的な知識・技能を体系的に身に付けている。
- (2) 現代のスポーツ全体を見渡し、スポーツの価値を有効に活用することで個人や組織、社会の課題解決を図るとともに、スポーツビジネスの発展や地域における豊かなスポーツライフの実現を推進し得る実践的なマネジメント力を身に付けている。

2. 汎用的能力

- (1) 課題の発見・設定をし、その解決に必要な情報を収集・分析・整理し、解決の方法を見出し、解決のための方策を企画・実行することができる。（企画力、課題解決力）
- (2) 筋道を立てて思考し、適切な根拠に基づき、自分の考えを表現できる。（論理的思考力、表現力）
- (3) 日本語及び外国語を使って読み、書き、聞き、話すことができる。（コミュニケーションスキル）
- (4) ICTを使って多様な情報を収集・分析し、判断・活用することができる。（情報収集・活用能力）

3. 態度

- (1) スポーツを事業として捉えてビジネスチャンスを見出す、ライフステージに応じたスポーツや運動プログラムを企画するなど、スポーツの新たな価値を創造する意欲を有している。（新たな価値の創造）
- (2) 様々な立場の人と協調・協働し、体育スポーツ学、スポーツマネジメント学における課題の解決に向かって主体的に参画し、リーダーシップを発揮しようとしている。（チームワーク、リーダーシップ、参画）
- (3) 共生社会の実現に向けて、様々な立場の人を尊重し、共感し、思いやりのある態度をとろうとしている。（共生、共感）
- (4) 社会の規範やルールに従い、責任感をもって行動しようとしている。（規範意識、倫理観）
- (5) 自己への理解を深め、確たる自信や前向きな態度をもって、自律して生涯学び続けようとしている。（自己理解、自己効力感、自律、生涯学習）

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

スポーツマネジメント学部のディプロマ・ポリシーを踏まえ、カリキュラム・ポリシーを次のように定める。

1. 教育課程の編成

- (1) 本学が果たしてきた歴史的・社会的使命を理解すると同時に我が国の体育・スポーツの歴史を知り、本学で学ぶ意味の醸成を目的として「日体大アイデンティティ科目」を設け、「日体大の歴史」及び「オリンピック・パラリンピック概論」を置く。
- (2) 体育・スポーツにおける実践的指導力のみならず、広く社会一般で先導的役割を担うためのチームワークやリーダーシップ、コミュニケーション能力並びに規範的意識を養成するため、「日体大アイデンティティ科目」に「海浜実習」、「キャンプ実習」、「スキー実習」、「スケート実習」の4つの学外（野外）実習科目を設ける。
- (3) 多様性を受け容れ、共生・共感的態度をもって、地球市民として各分野で活躍できる力を養うために「グローバルコミュニケーション科目」を設ける。
- (4) 幅広い教養を身に付け、生涯学び続けることのできる前向きな態度を育成するために、初年次と2年次に「教養科目」を設ける。
- (5) スポーツマネジメントにおける課題を主体的に解決できる能力を育成するために、初年次から4年次までを通した「総合教育科目」の中に研究科目を設ける。この科目群では、初年次に「スポーツマネジメント研究A」、2年次に「スポーツマネジメント研究B」、3・4年次に「スポーツマネジメント研究C・D・E・F」を必修とし、論理的思考力、表現力、情報収集・活用能力、課題解決力の段階的・体系的な能力の向上を図る。
- (6) 体育スポーツ学、スポーツマネジメント学に関する基礎的な知識と技能を身に付けることを目的とした「基幹科目」と「展開科目」を設ける。
- (7) 専門分野の知識・技能を身に付け、社会の状況に応じた実践的マネジメント能力を高めるために、各学科に「学科基礎科目」と「学科専門科目」を設ける。
 - ① スポーツマネジメント学科
スポーツに関係する組織や団体、企業等をマネジメントしたり、スポーツをビジネスと関連付けてマネジメントするための専門的な知識や技能を身に付けるために、「学科基礎科目」を設ける。また、世界中で展開しているイベント・商品開発・施設経営など様々なスポーツビジネスの実践現場に活かせる企画力・実践力・プレゼンテーション力を養い、新たな価値を生み出す意欲と態度を培うために、「学科専門科目」を設ける。

② スポーツライフマネジメント学科

多様な人々のスポーツライフをマネジメントし、現代社会の様々な課題を解決するための専門的な知識や技能を身に付けるために、「学科基礎科目」を設ける。また、部活動、地域スポーツ、まちづくり、健康づくりなどに関わる指導力とマネジメント力を向上させるための「学科専門科目」を設け、専門性の高い指導者を養成するためにアウトドアスポーツに関わる理論・実習、スポーツ・レクリエーションの実技、高齢者や障がい者のスポーツ指導に関する実技などの科目を配置する。

(8) 多様な形で社会に貢献できる能力を育成するために、「自由科目」を設ける。

2. 教育方法

(1) 講義、演習、実技、実習をバランスよく組み合わせ、主体的な学修の充実を図る。

(2) 科目の特性に応じて双方向型授業、グループワーク、集団討論、反転授業、PBL型授業等を初年次から展開し、動機付け・目的意識の向上を促す。

3. 学修の評価

(1) 各科目の到達目標と評価方法はシラバスに明示し、具体的な評価基準については、授業内で学生に周知する。

(2) 学修成果は定量的、定性的に評価する。

(3) 「スポーツマネジメント研究E・F」での成果、提出された論文等から4年間の学修を総合的に評価する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

スポーツマネジメント学部のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、アドミッション・ポリシーを以下に明示する。

【求める学生像】

1. スポーツに関わる組織や個人のマネジメント及びスポーツをめぐるビジネスについての知的好奇心の旺盛な人
2. 体育スポーツ学、スポーツマネジメント学を学修する上で幅広い教養を担保するものとして、高等学校などで身に付けるべき各教科に関する基礎的学力を有している人
3. 授業、大学行事、課外活動、ボランティア活動などにおいて、他者と協調・協働し、課題解決に向けた活動をすることに意欲を有している人
4. 国内外において体育・スポーツを推進し社会に貢献できるリーダーを目指す人

【入学者選抜の種類】

入学者選抜にあたっては、上掲の高等学校などにおいて修得すべき知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性、協働性などを備えているか否かを評価するため、「総合型選抜」「学校推薦型選抜」「一般選抜」「特別選抜」など多様な選抜区分を設ける。

児童スポーツ教育学部が定める3つの方針

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

児童スポーツ教育学部では、本学の「教育目標」に基づき、教育学・保育学、体育・スポーツ科学に関する専門教育並びに教養科目等に関する共通教育を通じて、以下のような資質・能力を獲得した学生に「学士（児童スポーツ教育学）」を授与する。

1. 幅広い教養と専門分野の知識・技能
 - (1) 幅広い教養と専門分野（教育学・保育学、体育・スポーツ科学）に関する基礎的な知識・技能を体系的に身に付けている。
 - (2) 児童（乳幼児を含む）の状況に応じた実践的指導力を身に付けている。
2. 汎用的能力
 - (1) 課題の発見・設定をし、その解決に必要な情報を収集・分析・整理し、解決の方法を見出し、解決することができる。（課題解決力）
 - (2) 筋道を立てて思考し、適切な根拠に基づき、自分の考えを表現できる。（論理的思考力、表現力）
 - (3) 日本語及び外国語を使って読み、書き、聞き、話すことができる。（コミュニケーションスキル）
 - (4) ICTを使って多様な情報を収集・分析し、判断・活用することができる。（情報収集・活用能力）
3. 態度
 - (1) 様々な立場の人と協調・協働し、教育学・保育学、体育・スポーツ科学における課題の解決に向かって主体的に参画し、リーダーシップを発揮しようとしている。（チームワーク、リーダーシップ、参画）
 - (2) 共生社会の実現に向けて、様々な立場の人を尊重し、共感し、思いやりのある態度をとろうとしている。（共生、共感的態度）
 - (3) 社会の規範やルールに従い、責任感をもって行動しようとしている。（規範意識、倫理観）
 - (4) 自己への理解を深め、確たる自信や前向きな態度をもって、自律して生涯学び続けようとしている。（自己理解、自己効力感、自律、生涯学習）

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

児童スポーツ教育学部のディプロマ・ポリシーを踏まえ、カリキュラム・ポリシーを次のように定める。

1. 教育課程の編成
 - (1) 共生、共感的態度で、自己効力感を持って前向きに学ぶ意欲を身に付けるとともに、チームワークやリーダーシップ、規範意識を養うために、本学独自の「日体大総合科目」を設ける。
 - (2) 幅広い教養を身に付け、生涯学び続けることのできる前向きな態度を育成するために、初年次と2年次に「教養科目」を設ける。
 - (3) 外国語でのコミュニケーションスキルを高めることを目的とした「言語コミュニケーション科目」を2年次までに設ける。
 - (4) 教育・保育、体育・スポーツにおける課題を主体的に解決できる能力を育成するために、初年次から4年次までを通じた「児童スポーツ教育学部基軸・キャリア科目」を設ける。この科目群では、初年次に「基礎ゼミナール」、2年次に「児童スポーツ教育演習」、3・4年次に「児童スポーツ教育研究」を必修とし、論理的思考力、表現力、情報収集・活用能力、課題解決力の段階的・体系的な能力の向上を図る。
 - (5) 教育学・保育学、体育・スポーツ科学に関する基礎的な知識と技能を身に付けることを目的とした「共通専門科目」を2年次までに設ける。
 - (6) 専門分野の知識・技能を身に付け、児童（乳幼児を含む）の状況に応じた実践的指導力を高めるために、「スポーツ実技科目」と「コース専門科目」を設ける。
「コース専門科目」については、各コースで次のように配置する。
 - ① 児童スポーツ教育コース
初等教育に関する知識と指導力を身に付けるために、2・3年次を中心に「教育の基礎に関する科目」、「教科の内容と指導法に関する科目」、「中学校関連科目」を配置する。併せて、本コースの特徴である身体・健康・スポーツに関わる「発展・展開科目」を3年次までに設ける。
 - ② 幼児教育保育コース
幼児教育・保育に関する知識と指導力を身に付けるために、1・2年次を中心に「教育・保育の基礎に関する科目」を設け、2年次を中心に「保育の内容と指導に関する科目」を各学年に配置する。併せて、幼児教育・保育の様々な分野に関する専門的知識と技術を身に付けるために、「発展・展開科目」を3年次以降に配置する。さらに、「教育・保育実習科目」を2年次から3年次までに段階的に配置する。
 - (7) 教職界に限らず、多様な形で社会に貢献できる能力を育成するために、「自由科目」を設ける。

2. 教育方法

- (1) 講義、演習、実技、実習をバランスよく組み合わせ、主体的な学修の充実を図る。
- (2) 科目の特性に応じて双方向型授業、グループワーク、集団討論、反転授業、PBL型授業等を初年次から展開し、動機付け・目的意識の向上を促す。

3. 学修の評価

- (1) 各科目の到達目標と評価方法はシラバスに明示し、具体的な評価基準については、ルーブリックを作成し、授業内で学生に周知する。
- (2) 学生自身が学修履歴を記録するポートフォリオを用意し、学修をふり返り、自己評価を行う機会を「児童スポーツ教育学部基軸・キャリア科目」の授業の中に設ける。
- (3) 「児童スポーツ教育研究」によって提出された論文・成果物等から4年間の学修を総合的に評価する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

児童スポーツ教育学部のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、アドミッション・ポリシーを以下に明示する。

【求める学生像】

1. 教育・保育への関心を持ち、それらの職への強い使命感や志のある人
2. 教育学・保育学、体育・スポーツ科学を学修する上で幅広い教養を担保するものとして、高等学校などで身に付けるべき各教科に関する基礎的学力を有している人
3. 授業、大学行事、課外活動、ボランティア活動などにおいて、他者と協調・協働し、課題解決に向けた活動をすることに意欲のある人
4. 社会の規範やルールに従い、責任感をもって行動しようとする人

【入学者選抜の種類】

入学者選抜にあたっては、上掲の高等学校などにおいて修得すべき知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性、協働性などを備えているか否かを評価するため、「総合型選抜」「学校推薦型選抜」「一般選抜」「特別選抜」など多様な選抜区分を設ける。

保健医療学部整復医療学科が定める3つの方針

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

保健医療学部整復医療学科では本学の「教育目標」に基づき、整復医療学、医学・伝統医学、体育・スポーツ科学に関する専門教育並びに教養科目等に関する共通教育を通じて、以下の資質・能力を獲得した学生に「学士（整復医療学）」を授与する。

1. 幅広い教養と専門分野の知識・技能
 - (1) 幅広い教養と整復医療学及び体育・スポーツ科学に関する基礎的な知識・技能を身に付けている。
 - (2) 整復医療学の知識を活かし体育・スポーツを含めた幅広い現場の保健医療学的諸問題に対する応用力を身に付けている。
2. 汎用的能力
 - (1) 国際的視野と地域的視点を持ち、新たな課題を発見し解決までの道筋を考え解決に導くことができる。（課題発見力、問題解決力）
 - (2) ICT等を用いて、適切な情報を選択・統合し論理的な判断ができる。（情報リテラシー、論理的思考力）
 - (3) 他者を十分に理解し思いやりのあるコミュニケーションをはかることができる。（コミュニケーションスキル）
3. 態度
 - (1) 社会や組織の一員として他者と連携・協働し、専門性を活かした活動を主体的に行うことができる。（チームワーク、リーダーシップ）
 - (2) 共生社会の実現に向けて、様々な立場の人を尊重し、思いやりのある態度を取ろうとしている。（共生、共感的態度）
 - (3) 社会における規範やルールを尊重するとともに、医療人としての倫理観と使命感を備えている。（規範意識、社会的責任、倫理観、使命感）
 - (4) 省察を深め、確たる自信や前向きな態度をもって自律して探究心を持ち続けようとしている。（自己理解、自律、探究心）

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

保健医療学部整復医療学科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、カリキュラム・ポリシーを次のように定める。

1. 教育課程の編成
 - (1) 学部共通教育課程
 - ① 共生、共感的態度で、自己効力感を持って前向きに学ぶ意欲を身に付けるとともに、体育・スポーツ場面を中心としたチームワークやリーダーシップ、規範意識を養うために、「日体大アイデンティティ科目」を設ける。
 - ② 保健医療学・医学分野における基礎的な知識と技能及び体育・スポーツ現場における実践的課題解決能力を身に付けるために「保健医療学系科目」を設ける。
 - ③ 体育・スポーツ科学の基礎的な知識と技能を身に付けるとともに、この分野に関わる保健医療学的課題発見・解決能力を育成するために「体育・スポーツ科学系科目」を設ける。
 - ④ 幅広い教養を身に付け、コミュニケーション能力や倫理観を高めるために「教養科目」、「グローバルコミュニケーション科目」、「社会貢献科目」、「教職科目」、「航空関連科目」、「モータースポーツ関連科目」等を設ける。
 - (2) 学科専門教育課程
専門分野の知識・技能を体系的に身に付け、幅広い現場の保健医療学的諸問題に対する応用力を高めるための科目を以下のとおり設ける。
 - ① 1年次と2年次を中心に、人体の構造や機能を学ぶ科目や柔道整復学の基礎を学修する科目を設ける。
 - ② 2年次から4年次にかけて、病理学や整形外科学等の現代医学に関する科目と発展的な柔道整復学やアスリートの外傷予防や治療、リハビリテーションについて学修する科目を設ける。
 - ③ ライフステージや健康状態、スポーツ活動等の特徴に応じた柔道整復の実践を身に付けるため、1年次から4年次にかけて学修段階に応じた臨床実習科目を設ける。
 - ④ 学部共通教育及び学科専門教育で学修する知識・技術を統合し、主体的な学びを実践するため整復医療総合演習や卒業研究等の科目を設ける。
2. 教育方法
 - (1) 講義・演習：知識の定着と技術の正確性を高めるため、反復して学修することを重視する。また、アクティブラーニングを適宜行い、意見や解釈の多様性を理解する。
 - (2) 実習：参加型実習を重視する。倫理観、協調性、自己の役割と責任を認識し、主体的に行動できるよう促す。また、プレゼンテーションの場を適宜設定し、知識の整理と伝える力を養成する。
 - (3) 臨床実習：多様な患者ニーズに応えるための総合的な実習をスポーツ現場や接骨院でおこなう。

3. 学修の評価

- (1) 各科目の到達目標と評価方法はシラバスに明示する。
- (2) 学修の評価は授業形態や到達目標に応じて筆記試験、レポート、学修態度、成果発表、実技試験等によりおこなう。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

保健医療学部整復医療学科のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、アドミッション・ポリシーを以下に明示する。

【求める学生像】

1. 整復医療学への強い関心を持ち、これらの知識・技術をととして社会に貢献する意欲がある人
2. 整復医療学、体育・スポーツ科学を学修する上で幅広い教養を担保するものとして、高等学校までに身に付けるべき各教科に関する基礎的学力を有する人
3. 自分の考えを論理的にまとめ、表現するためのコミュニケーション力を有する人
4. 多様な人々と協調・協働し、主体的な学びや問題解決への取り組みに意欲がある人

【入学者選抜の種類】

入学者選抜にあたっては、上掲の高等学校などにおいて修得すべき知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性、協調性などを備えているか否かを評価するため、「総合型選抜」「学校推薦型選抜」「一般選抜」「特別選抜」など多様な選抜区分を設ける。

保健医療学部救急医療学科が定める3つの方針

ディプロマ・ポリシー（卒業認定・学位授与の方針）

保健医療学部救急医療学科では本学の「教育目標」に基づき、救急医療・蘇生医療・災害医療、体育・スポーツ科学に関する専門教育並びに教養科目等に関する共通教育を通じて、以下の資質・能力を獲得した学生に「学士(救急医療学)」を授与する。

1. 幅広い教養と専門分野の知識・技能
 - (1) 幅広い教養と救急・災害医療学及び体育・スポーツ科学に関する基礎的な知識・技能を身に付けている。
 - (2) 救急医療学の知識を活かし体育・スポーツを含めた幅広い現場の保健医療学的諸問題に対する応用力を身に付けている。
2. 汎用的能力
 - (1) 国際的視野と地域的視点を持ち、新たな課題を発見し解決までの道筋を考え解決に導くことができる。(課題発見力、問題解決力)
 - (2) ICT等を用いて、適切な情報を選択・統合し論理的な判断ができる。(情報リテラシー、論理的思考力)
 - (3) 他者を十分に理解し思いやりのあるコミュニケーションをはかることができる。(コミュニケーションスキル)
3. 態度
 - (1) 社会や組織の一員として他者と連携・協働し、専門性を活かした活動を主体的に行うことができる。(チームワーク、リーダーシップ)
 - (2) 共生社会の実現に向けて、様々な立場の人を尊重し、利他の精神をもって思いやりのある態度を取ろうとしている。(共生、利他性、共感的態度)
 - (3) 社会における規範やルールを尊重するとともに、医療人としての倫理観と使命感を備えている。(規範意識、社会的責任、倫理観、使命感)
 - (4) 省察を深め、確たる自信や前向きな態度をもって自律して探究心を持ち続けようとしている。(自己理解、自律、探究心)

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

保健医療学部救急医療学科のディプロマ・ポリシーを踏まえ、カリキュラム・ポリシーを次のように定める。

1. 教育課程の編成
 - (1) 学部共通教育課程
 - ① 共生、共感的態度で、自己効力感を持って前向きに学ぶ意欲を身に付けるとともに、体育・スポーツ場面を中心としたチームワークやリーダーシップ、規範意識を養うために、「日体大アイデンティティ科目」を設ける。
 - ② 保健医療学・医学分野における基礎的な知識と技能及び体育・スポーツ現場における実践的課題解決能力を身に付けるために「保健医療学系科目」を設ける。
 - ③ 体育・スポーツ科学の基礎的な知識と技能を身に付けるとともに、この分野に関わる保健医療学的課題発見・解決能力を育成するために「体育・スポーツ科学系科目」を設ける。
 - ④ 幅広い教養を身に付け、コミュニケーション能力や倫理観を高めるために「教養科目」、「グローバルコミュニケーション科目」、「社会貢献科目」、「教職科目」、「航空関連科目」、「モータースポーツ関連科目」等を設ける。
 - (2) 学科専門教育課程
教育課程全体を通じて崇高な精神と高い倫理観を養い、専門分野の知識・技能を体系的に身に付けるとともに、幅広い現場の保健医療学的諸問題に対する応用力を高めるための科目を以下のとおり設ける。
 - ① 1年次に医療の基礎的な分野の知識を学び、実習では救護対応で必須の観察・判断・処置を学ぶ科目を設ける。また、医の倫理を学ぶために、解剖学に関する科目を設ける。
 - ② 2年次からより専門的な分野の知識を学び、実習では救急救命処置に必須の知識と技術を学ぶ科目を設ける。
 - ③ 2・3年次には実際の現場においてより実践的に学ぶための病院内実習、救急車同乗実習等を設ける。また、災害医療の実践力を育成するために災害現場を想定した実習科目を設ける。
 - ④ 3・4年次には学部共通教育及び学科専門教育で学修する知識・技術を統合し、主体的な学びを実践するため救急医療総合演習や卒業研究等の科目を設ける。
 - ⑤ 国際的な視野を身に付けるために、国際的な救急システムに関する科目を設ける。
2. 教育方法
 - (1) 講義、演習、実技、実習を配置し、学修の充実を図る。特に演習、実習を充実させることで実践力を醸成する。
 - ① 講義：インプットとアウトプット(レポート課題など)を両立させながら、知識の定着や論理的思考を養う。
 - ② 演習・実習：医学的根拠を含めた知識の定着と技術の正確性を向上させるため、反復して修得することを重視する。
 - ③ 学生の習熟度に合わせたリメディアル教育を実践する。
 - (2) 科目特性に応じて双方向型授業、グループワーク、集団討論、反転授業、PBL型授業等を1年次から展開し、動機付け・目的意識の向上を促す。

3. 学修の評価

- (1) 各科目の到達目標と評価方法はシラバスに明示する。
- (2) 学修の評価は授業形態や到達目標に応じて筆記試験、レポート、学修態度、成果発表、実技試験等で評価する。
- (3) 救急救命士国家試験における厚生労働大臣の指定する科目については、国家試験水準での点数評価を重視する。
- (4) 学修到達度の確認には各科目での成績評価に加え、全ての科目においてルーブリックによる評価基準の可視化を実施する。さらに科目特性や必要に応じてポートフォリオによる学修者の省察を実施する。
- (5) 専門知識と医療技術に関する実践能力は、OSCE(Objective Structured Clinical Examination：客観的臨床能力試験)で評価する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入の方針）

保健医療学部救急医療学科のディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、アドミッション・ポリシーを以下に明示する。

【求める学生像】

1. 救急・災害医療学への関心を持ち、それらの職への強い使命感や志のある人
2. 救急・災害医療学、体育・スポーツ科学を学修する上で幅広い教養を担保するものとして、高等学校までに身に付けるべき各教科に関する基礎的学力を有する人
3. 授業、大学行事、課外活動、ボランティア活動などにおいて、他者と協調・協働し、課題解決に向けた活動をチームで実践できる人
4. 国家資格である救急救命士を理解し、倫理観や責任感を有する人

【入学者選抜の種類】

入学者選抜にあたっては、上掲の高等学校などにおいて修得すべき知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性、協調性などを備えているか否かを評価するため、「総合型選抜」「学校推薦型選抜」「一般選抜」「特別選抜」など多様な選抜区分を設ける。

「学力の三要素」を踏まえた多面的・総合的評価について

選抜区分	選考方法	①知識・技能	②思考力・判断力・表現力	③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度
帰国生選抜	書類審査	●	●	●
国際バカロレア資格選抜	小論文試験	●	●	—
外国人留学生選抜	プレゼンテーション	—	●	●
リカレント選抜	実技試験※1	●	—	—
飛び入学選抜				

※1 実技試験はスポーツ文化学部 武道教育学科のみ

「小論文試験」

志望学部・学科での学修に関わる基礎的内容に関して自身の考えを文章表現し、理解力、文章構成・表現力、分析力等を論述する。

【①知識・技能】【②思考力・判断力・表現力】を評価する。

「プレゼンテーション」

直接の対話や出願時に提出する書類により、学力試験では測ることのできない適性や意欲、熱意・関心等を多面的に評価する。

【②思考力・判断力・表現力】【③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】を評価する。

提出書類については、出願資格の確認及びプレゼンテーション試験等の資料として活用し、総合的に評価する。また、入学後の教育・指導や、入学者選抜制度の検証等に参考資料として活用する等を多面的に評価する。

【①知識・技能】【②思考力・判断力・表現力】【③主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度】を評価する。

「実技試験」

指定する種目を通じて、人間の心身の可能性（運動能力の向上等）における探究力、大学教育を受けるに相応しい能力・適性を多面的に評価する。

【①知識・技能】を評価する。

リカレント選抜要項

1. 募集人員

学部	学科・コース	募集人員
体育学部	体育学科 健康学科	若干名
スポーツ文化学部	武道教育学科(※) スポーツ国際学科	若干名
スポーツマネジメント学部	スポーツマネジメント学科 スポーツライフマネジメント学科	若干名
児童スポーツ教育学部	児童スポーツ教育コース 幼児教育保育コース	若干名
保健医療学部	整復医療学科 救急医療学科	若干名

※武道教育学科

種目【柔道、剣道、相撲、空手道、少林寺拳法、合気道、弓道、なぎなた、伝統芸能】

2. 出願資格

令和8年3月31日現在満22歳以上の者で、次の(1)～(3)のいずれかに該当する者。

- (1) 高等学校(中等教育学校を含む)を卒業した者。
- (2) 通常の課程による12年の学校教育を修了した者。
- (3) 学校教育法施行規則の規定により高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者。

3. 選抜日程・選抜方法等

出 願 期 間		令和7年11月1日(土)～令和7年11月10日(月) 期間内消印有効
選 考 試 験	試 験 日	令和7年12月14日(日)
	試験場入室時間	9:00～9:40
	選考方法	小論文試験 (日本語で論述する。60分) 10:00～11:00
		プレゼンテーション* (15分程度) 小論文終了後、順次実施
		*3～5分以内でプレゼンテーション(これまでの経歴や入学後の学修目標、卒業後の進路等)を 日本語で行い、その後、質疑応答を行います。なお、プレゼンテーションは口頭のみとします。
		※実技試験(動画提出) ※武道教育学科のみ 詳細は「4.実技試験について」を参照
	試 験 場	本学(東京・世田谷キャンパス)
	合格発表日	令和7年12月25日(木)
入学手続締切日		令和8年1月9日(金)

4. 実技試験について(動画提出)※武道教育学科のみ

(1) 実技試験動画について

出願時に、各種目の課題を撮影した動画を作成し、提出してください。

◆提出方法等

- ①撮影した動画はUSBメモリ(DVD-R可)で提出してください。
- ②提出された動画は返却できません。
- ③動画保存時における拡張子は、『.mp4』としてください。

◆試技及び撮影に関する注意事項

- ①試技はそれぞれの種目の道着、衣装にて行ってください。
- ②本人確認のため試技を始める前に、顔がはっきりと映る位置から氏名・種目・生年月日(西暦)を申告してください。

- ③編集・加工は不可とします。それらが認められた場合や、本人確認ができない場合は不合格となる場合があります。
- ④試技撮影時のカメラは固定し、全身が映るように撮影してください。
- ⑤試験課題毎に撮影を止める場合は、撮影の都度、氏名・種目・生年月日(西暦)を申告してください。
- ⑥各種目の指定された試験課題が終了するまで撮影してください。

(2)課題詳細について

種目	試験課題	試験内容	撮影方向	備考
柔道	①座礼と立礼	正座→礼→起立→立礼→一步前へ	側面	全ての内容を5分以内にまとめること
	②受け身	後方受け身・前受け身・横受け身(左右)・前方回転受け身(左右) 各1回		
	③一人打ち込み	得意な技3種類 各10回		
剣道	①素振り	①上下振り10本 ②斜め振り10本 ③空間打突(正面)10本 ④跳躍素振り(早素振り)20本	正面	・全て面を装着せずに実施すること ・全日本剣道連盟編「剣道指導要領」を参照
	②面装着	①面装着	側面	・全て面を装着して実施すること ・元立ちは高校生とすること ・全日本剣道連盟編「剣道指導要領」を参照
	③基本稽古	①切り返し		
	④しかけ技	①一本打ちの技(面・小手・胴・突き)各1本 ②連続技(小手→面、突き→面)各1本 ③払い技(払い面(表)、払い小手)各1本 ④出ばな技(出ばな面、出ばな小手)各1本 ⑤引き技(引き面、引き胴)各1本		
	⑤応じ技	①抜き技(面抜き右胴、小手抜き面)各1本 ②すり上げ技(面すり上げ面(表)、小手すり上げ面)各1本 ③返し技(面返し胴(右)、小手返し面)各1本 ④打ち落とし技(胴打ち落とし面)1本		
	⑥基本稽古	①打ち込み稽古15秒 ②掛かり稽古15秒		
	⑦互格稽古	①互格稽古1分		
相撲	①蹲 踞	直立姿勢から撮影し、蹲踞の姿勢で3秒静止すること	正面	・(公財)日本相撲連盟ホームページ「中学校体育 相撲指導の手引き」(改訂版)を参照
	②中腰の構え	直立姿勢から撮影し、中腰の姿勢で3秒静止すること		
	③「押し」を意識した中腰の構え	直立姿勢から撮影し、「押し」を意識した中腰の姿勢で3秒静止すること		
	④仕切り	直立姿勢から撮影し、仕切りの姿勢で3秒静止すること		
	⑤塵手水	直立姿勢から撮影し、一つ一つの動作を流れ良く行うこと		
	⑥四 股	中腰の構えから撮影し、四股は20回踏むこと		
空手道	①指定形での試技	第一指定形、第二指定形から一つを選択し試技すること	正面	・形の試技は(公財)全日本空手道連盟が定める指定形で行うこと
少林寺拳法	①基本諸法	結手、合掌構、左中段構、開退って右一字構、結手	正面	
	②基本突蹴受	開足中段構から上段振り突、中段蹴上、中段廻蹴、下受、払受、上受、を各6回行う		
	③移動突蹴	左前中段構から差替上中二連突、逆突逆蹴、開退乍ら上受・同時受、を各6回行う		
	④単独演武	左前から天地拳第一から天地拳第六、を1回行う		
合気道	①技	1)片手取り四方投げ 2)正面打ち入身投げ 3)正面打ち第一教 4)片手取り小手返し 5)両手取り天地投げ 6)座技正面打ち第一教 7)半身半立ち片手取り四方投げ 8)半身半立ち両手取り四方投げ 9)自由技(攻撃方法は任意) 10)座技呼吸法	側面 (実施者が画面を横切るように撮影)	・画面に対して横を向き、取りと受けを左右交互に2回実施すること ・表裏がある技は表裏の順に行うこと

種目	試験課題	試験内容	撮影方向	備考
弓道	①射法八節	立射にて正面と背面の両方向からそれぞれ一手ずつ行う	正面・背面	・必ず射の全体がわかるように常に全身を大きく撮影すること ・弓は多少見切れても可とする
なぎなた	①八方振り	各部8呼間で行う	正面 (切先も入るように撮影)	・自然体→礼→中段の構えから八方振りに入る
	②空間打突	面、振り上げ脛、側面・脛、胴・振り返し面、小手	側面 (切先も入るように撮影)	・中段の構え→打突→体さばきで一步又は二歩下がる→打突
伝統芸能	①日本舞踊・和太鼓・民俗芸能	日本舞踊・和太鼓・民俗芸能のいずれか1演目を演じること ※試技は身体動作を含むものに限る	正面 (演目全体がわかるように撮影)	・演目名を申告後、演技を始めること (例)日本舞踊「○○○○」 ・演技時間は3～5分以内とする

5. 出願手続

(1)提出方法

所定の「宛名シート」を貼付した角2封筒に、出願書類一式を封入し、「速達・特定記録」扱いで郵送してください。(「特定記録郵便物等受領証」は大切に保管してください。)

なお、窓口出願は受け付けていません。

(2)入学検定料

35,000 円

出願期間中に下記口座へ検定料を振込んでください。

振込みの際、ご依頼人名は必ず志願者氏名で振込んでください。

＜入学検定料振込先＞

みずほ銀行 世田谷支店 普通預金 943559

ニッポンタイクダイガクケンテイリョウグチ
日本体育大学検定料口

・振り込み後は、依頼人の控え(インターネットバンキングの場合は振込日時、宛先、金額など、振り込みの概要が分かる画面もしくはプリントアウト)を大切に保管してください。

(3)出願書類(所定用紙は本学ホームページから印刷してください。)

出 願 書 類	注 意 事 項
①受験票・写真票・志願票(所定用紙)	・受験票・写真票・志願票に同じ写真3枚を貼付してください。 (出願締切日から3ヶ月以内に撮影した正面上半身無帽で縦4cm×横3cm)。
②志願理由書(所定用紙)	・黒ボールペンで本人が自筆してください。
③履歴書(所定用紙)	・黒ボールペンで本人が自筆してください。
④志願者情報登録カード(エクセル入力)	①本学ホームページからダウンロードし、必要事項を入力後、印刷して提出してください。 ②入力データは、併せてメールでも提出してください。 送信先メールアドレス: nyushi2025@nittai.ac.jp

⑤調査書	・ 出身学校長が作成し、厳封したもので、出願前 3 か月以内に発行されたもの。 ・ 高等学校卒業程度認定試験合格(見込)者は、合格(見込)成績証明書を出してください。但し、免除科目がある場合は、以前に在籍した学校の成績証明書も併せて提出してください。 ※ 廃校・被災その他の事情により調査書が得られない場合は、事前にアドミッションセンターまでお問い合わせください。
⑥実技試験動画(武道教育学科のみ)	詳細は、P.17～19 ページを参照してください。

* 外国の学校または機関が作成する書類が日本語・英語以外の言語で書かれている場合、日本語または英語の訳文を添付してください。その際は大使館等の公的機関からの翻訳証明が必要です。

(4) 受験票について

受験票は、出願受付後メールにて配信いたします。

試験日の 3 日前までにメールが届かない場合はアドミッションセンターまで連絡してください。

6. 出願に関する注意事項

(1) 出願上の注意

①不備のある出願書類や出願締切後に発送された出願書類は一切受け付けません。

②一度提出された出願書類及び支払われた入学検定料は一切返還しません。

【入学検定料の返還請求(振込手数料を除く)が可能となる場合】

・入学検定料を支払ったが、本学に出願書類を発送しなかった。または出願書類が受理されなかった。

・入学検定料を誤って二重に支払った。

③出願受付後、他選抜区分及び他学科・コースへの変更はできません。

④出願書類に虚偽の記載がなされていた場合、入学前に重大な不祥事を起こした場合は、合格の場合でも合格取消となりますので、公正な手続等によって出願・受験してください。

⑤志願者数確定後、志願者数速報を本学ホームページ(<https://www.nittai.ac.jp/>)でお知らせします。

(2) 障がい等のある入学志願者の事前相談について

(参照: <https://www.nittai.ac.jp/exam/com/recruitment.html#anchor07>)

けが及び障がい等により受験時または入学後に配慮を希望する場合は本学ホームページより「入学者選抜受験上の配慮について」を確認し、「入学者選抜受験上の配慮申請書(所定用紙 A)」を提出してください。

(3) 外国籍を有する者の出願書類について

(参照: <https://www.nittai.ac.jp/exam/com/recruitment.html#anchor08>)

外国籍を有する者は、本学ホームページより「外国籍保有者願書(所定用紙 B)」を確認し、所定用紙を提出してください。

なお、日本国籍を有する二重国籍者は提出不要です。

(4) 本学からの連絡について

本学からの連絡については、出願時に登録した電話番号または E-mail アドレス宛に行います。ドメイン指定受信をしている場合は、本学からのメール(@nittai.ac.jp / @ml.nittai.ac.jp)が受信できるようにあらかじめ設定しておいてください。

7. 保証人について

本学では、保証人は出願時には必要としませんが、入学手続き時に保証人を定めて届け出ることとしています。

外国籍を有する者(永住者を除く)の保証人は日本国籍を有する成年であって日本国内に居住し独立の生計営む者となります。

8. 受験に関する注意事項

■試験当日の注意事項

(1) 持参するものについて

①受験票

受験票を紛失または忘れた場合は、本学試験担当者に申し出てください。

②筆記用具

黒鉛筆(HB)またはシャープペンシル(HB)、プラスチック製消しゴム

③時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの・秒針音のするもの・キッチンタイマー・大型のものは不可)

試験場内に時間を確認できる時計がない場合がありますので、腕時計等を持参してください。

④服装・昼食(任意)

試験場換気による窓の開放等を行う時間帯があるため、必要に応じて上着等暖かい服装を持参してください。また、試験会場では学生食堂等の営業は行わないため、必要に応じて昼食を持参してください。

なお、飲食は自席に限ります。

※会場内備え付けの自動販売機は利用可能ですが、数に限りがありますので、飲み物はできる限り各自でご用意ください。

(2) 試験当日、学校保健安全法で出席の停止が定められている感染症(COVID-19、インフルエンザ、麻疹、風疹等)に罹患し治癒していない者は、他の受験者や監督者等への感染のおそれがありますので、受験をご遠慮願います。試験当日の体調管理については十分に注意してください。なお、上記により受験をご遠慮いただいた場合でも、追試験などの措置、入学検定料の返還は行いません。

(3) 筆記試験において英字文や漢字等がプリントされている衣類(上着)は着用しないでください。着用している場合には、脱いでもらうこともあります。その他着衣について指示があった場合は従ってください。

(4) 携帯電話、スマートフォン、ウェアラブル端末等の電子機器類は試験場に入る前に必ずアラームの設定を解除し電源を切り、試験場から退構するまで、かばん等にしまってください。これらをかばん等にしまわず、身に付けていたり手に持っているとは不正行為となることがあります。

(5) キャンパス入構時に受験票を提示してください。入構後は、試験終了までキャンパス内から出ることはできません。

(6) 可能な限り、試験場までの道順、所要時間等を実際に確認しておいてください。

なお、以下の日程は入学者選抜準備及び実施のため、本学キャンパス内に入構できません。

【東京・世田谷キャンパス】

令和7年10月11日(土)～ 令和7年10月12日(日)

令和7年10月17日(金)～ 令和7年10月19日(日)

令和7年11月14日(金)～ 令和7年11月16日(日)

令和7年12月12日(金)～ 令和7年12月14日(日)

令和8年1月16日(金)～ 令和8年1月18日(日)

令和8年1月30日(金)～ 令和8年2月2日(月)

(7) 試験当日の緊急情報は右記 URL より確認できます。 <https://blog.nittai.ac.jp/nyushi/>

(8) 車での来場はできません。公共交通機関をご利用ください。

(9) 遅刻した場合について

試験開始後20分までに試験場(キャンパス内)に到着した場合に限り、受験を認めます。

※選考方法によって試験時間が異なります。詳細は各選抜要項を確認してください。

(10) 公共交通機関の遅延等により、試験場入室時間終了までに間に合わない場合は、直ちにアドミッションセンターへ連絡してください。また、当該公共交通機関において遅延証明書を必ず受領してください。

(11) 受験者以外の方は会場内に入れません。(付添人控室はありません。)

(12) 事故・怪我については応急処置をしますが、それ以上の責任は負いかねます。安全に十分注意して試験に臨んでください。

■試験時間中の注意事項

(1) 試験時について

- ①「受験票」は、試験担当者が見やすいように机上に置いてください。
- ②「受験票」の他に試験時間中、机上に置けるものは以下のとおりです。
 - ・ 黒鉛筆(HB)、シャープペンシル(HB)
 - ・ 鉛筆キャップ
 - ・ プラスチック製消しゴム
 - ・ 鉛筆削り(電動式・ナイフ類を除く)
 - ・ 時計(辞書、電卓、端末等の機能があるものや、それらの機能の有無が判別しづらいもの・秒針音のするもの・キッチンタイマー・大型のものは不可)
 - ・ 眼鏡
 - ・ ハンカチ
 - ・ ティッシュペーパー(袋または箱から取り出した紙のみであること)
 - ・ 目薬
- ③「耳せん」は、放送や試験担当者の指示等が聞き取れないことがありますので、キャンパス内では使用できません。
- ④座布団、クッション、タオル、ひざ掛け、手袋(多汗症用を含む)の使用を希望する場合は、試験開始前に監督者に申し出て許可を得てから使用してください。
- ⑤試験時間中に退室はできません。体調不良またはトイレ等やむを得ない場合には、手を挙げて試験担当者の指示に従ってください。ただし、一時退室が認められた場合でも、一時退室した間の試験時間の延長はできません。また、別室での受験もできません。
- ⑥不正行為について
以下のことを行うと不正行為になる場合があります。不正行為を行った場合は、その場で受験の中止と退出を指示され、それ以降の受験はできません。また、受験した全ての成績が無効になります。
 - ・ カンニング(カンニングペーパー・参考書・他の受験者の答案等を見ること、他の受験者から答えを教わること等)を行うこと。
 - ・ 他の受験者に答えを教えたり、カンニングの手助けを行うこと。
 - ・ 問題や解答用紙を試験場から持ち出すこと。また、問題を書き写すこと。
 - ・ 試験監督者の指示に従わず、問題を見る、解答を始める、または解答をやめないこと。
 - ・ 試験時間中に使用を認めていないものを机上に置くこと及びそれらを使用すること。
 - ・ 試験場において他の受験者の迷惑となる行為を行うこと。
 - ・ その他試験監督者の指示に従わないこと。

(2) 試験監督者の巡視について

試験時間中、監督者が試験室内の巡視を行います。その際、監督者が顔を上げるよう指示することや、マスクや眼鏡、帽子等を一時的に外すよう指示することなどがあります。

(3) 要項の選考方法に記載されている「プレゼンテーション」の時間は目安です。

9. 合否照会について

本学の合格発表は、「合否照会システム(インターネット)」により合否案内を行います。不合格通知書は送付いたしません。また、アドミッションセンターに直接連絡をしても合否に関わるお問い合わせは一切受け付けできませんので、下記照会方法をご確認ください。なお、合格通知書は Web 入学手続サイトより各自ダウンロードできます。

(1) 利用方法・注意点

- ①インターネット、スマートフォン及び携帯電話で利用できます。
- ②「誤操作」及び「見間違い」を理由とした、入学手続期間終了後の入学手続は認めません。
- ③合否発表当日は混雑のため回線がつながりにくいことがあります。その場合は、少し時間をおいてアクセスしてください。

④合否照会の利用期間は次のとおりです。

合否照会システム利用期間	
令和7年12月25日(木)～令和8年1月16日(金)	初日 10:00 より最終日 23:59 まで 確認可能

(2)照会方法

<https://www.gouhi.com/nittai/>



合否照会システム利用期間内に上記アドレスへアクセスし、画面の指示に従って操作してください。
また、本学ホームページ(<https://www.nittai.ac.jp/>)からも、上記アドレスへアクセスできますのでご利用ください。

10. 入学手続

(1)入学手続書類等の郵送について

合格者への入学手続書類の郵送は行いません。入学手続については、合否照会システムの案内に従ってください。

(2)入学手続締切日

令和8年1月9日(金)

- ①入学手続時納入金(学費等)は Web 入学手続サイトより「振込用紙」を印刷し、入学手続締切日までに金融機関窓口でお振込ください。
- ②入学手続書類は、必要書類を用意し、手続締切日(消印有効)までに郵送してください。(インターネット上での手続締切日も同日)
- ③入学手続締切日までに入学手続時納入金(学費等)が未納だった場合は、入学辞退となりますので注意してください。
- ④振込金受取書(本人保存)は、入学手続をした証明になりますので大切に保管してください。
- ⑤入学手続締切日以降に入学手続者へ入学手続完了の旨を出願時に登録したアドレスへメールで通知します。

(3)入学辞退について

提出期限:【窓口】令和8年3月31日(火)17:00 まで

【郵送】令和8年3月31日(火)消印有効(速達・特定記録としてください。)

入学手続時納入金(学費等)を振込み後、入学を辞退する場合は、上記期限までに入学辞退届(所定用紙)を提出してください。入学金(¥300,000)を除く納入金を返還いたします。手続方法については、入学手続時にご案内します。

(4)入学手続における個人情報の取扱いについて

入学手続にあたって提出していただいた個人情報は、入学手続およびこれらに付随する事項を行うために利用します。なお、これらの業務の一部を本学が指定した業者に委託します。業務委託にあたり、提出していただいた個人情報を、委託業者に対して提供することがあります。予めご了承ください。

11. 入学前教育の実施について

本学入学までの時間を有意義に過ごしてもらうために「入学前教育」を実施する予定です。詳細は合格発表日以降に連絡します。入学予定の学科によっては、その実施にあたって自己負担となる場合がありますので、予めご承知おきください。

学 費 案 内

(円)

費 目			体 育 学 部 ス ポ ー ツ 文 化 学 部 スポーツマネジメント学部 児童スポーツ教育学部		保 健 医 療 学 部			
					整 復 医 療 学 科		救 急 医 療 学 科	
					前 学 期	後 学 期	前 学 期	後 学 期
① 学 費	入 学 金	入学時のみ	300,000	—	300,000	—	300,000	—
	授 業 料		400,000	400,000	450,000	450,000	450,000	450,000
	施 設 整 備 費		125,000	125,000	150,000	150,000	150,000	150,000
	教 育 充 実 費		100,000	100,000	125,000	125,000	125,000	125,000
	健 康 管 理 費		10,000	—	10,000	—	10,000	—
	実 習 費		—	—	100,000	—	250,000	—
②その他の費用	学 友 会 費		13,000	—	13,000	—	13,000	—
	保 護 者 会 費		15,000	—	15,000	—	15,000	—
	同窓会準会員費	入学時のみ	10,000	—	10,000	—	10,000	—
分 納 の 場 合	③ 前学期納付金		973,000	—	1,173,000	—	1,323,000	—
	後学期納付金		—	625,000	—	725,000		725,000
一 括 納 入 の 場 合 (①+②)			1,598,000		1,898,000		2,048,000	

- ・授業料・施設整備費・教育充実費は、全額の1/2相当額を後学期に分納することができます。その場合の入学手続時の納入金額は、③の金額となります。(分納された方の後学期分納分の振込用紙は、1年次10月初旬に郵送します。)
- ・入学金・同窓会準会費以外の費目(金額)については、2年次以降も納入していただきます。
- ・学外集中実技を履修した際は、その都度費用をお支払いいただくことになります。
- ・スポーツ文化学部では、選択必修の海外での実習を行いますので、その実費をお支払いいただきます。
参考：スポーツ文化学部令和7年度実習費300,000円(入学後別途案内)
- ・日本体育大学奨学生は、上記のうち、学費の一部が免除されます。詳細については、p.25～p.26の「日本体育大学奨学生制度」をご覧ください。

寄 付 金 に つ い て

本学では、教育研究環境充実のため、寄付金を募集する場合があります。
ただし、いずれも応募は任意で、入学前には募集いたしません。

●「国の教育ローン」(教育貸し付け)について

「国の教育ローン」は、「家庭の経済的負担の軽減」、「教育の機会均等」という目的のために昭和54年に創設された公的な融資制度です。民間金融機関の補完を旨とする政策金融機関である日本政策金融公庫(日本公庫)が扱っています。詳しくは、教育ローンコールセンター 0570-008656 (03-5321-8656)、または「国の教育ローン」で検索、<https://www.jfc.go.jp/> から「国の教育ローン」を選択してください。

●「提携学費ローン」について

日本体育大学が提携する企業を通し、一般より有利な条件で学費を融資してもらう制度です。提携企業による申請資格や審査、融資年利率が設定されるものです。(本学HP：学生生活>学費・奨学金>学費 奨学金・教育ローン参照)

名 称	日本体育大学学費ローン	
提 携 先	株式会社オリエントコーポレーション	楽天銀行株式会社
問合せ先	株式会社オリエントコーポレーション 学費サポートデスク	楽天銀行 カードセンター 教育ローン専用ダイヤル
営業時間	平日 9:30～17:30 (土日を除く)	平日 9:00～19:30 (土日祝日 10:00～17:30)
☎	0120-517-325	0120-61-6910

学生生活案内

1. 授業実施キャンパスについて

(1) 体育学部

体育学部は、東京・世田谷キャンパスと横浜・健志台キャンパスの両キャンパスを使用して授業を実施します。

ただし、1，2年次は横浜・健志台キャンパスが中心となります。東京・世田谷キャンパスでの授業は週1回程度となる予定です。

(2) スポーツ文化学部

スポーツ文化学部は、東京・世田谷キャンパスで授業を実施します。

(3) スポーツマネジメント学部

スポーツマネジメント学部は、横浜・健志台キャンパスで授業を実施します。

(4) 児童スポーツ教育学部

児童スポーツ教育学部は、東京・世田谷キャンパスで授業を実施します。

(5) 保健医療学部

保健医療学部は、横浜・健志台キャンパスで授業を実施します。

2. クラブ活動拠点キャンパスについて

各クラブの活動拠点については「日本体育大学クラブパンフレット 2025」からご確認ください。

(<https://www.nittai.ac.jp/albums/abm.php?d=532&f=abm00008582.pdf&n=2025clubpamphlet.pdf>)



3. 日本体育大学奨学生制度

本学では、学業成績または競技成績が優秀で心身ともに健全な学生に対し、奨学生制度を設け、学費について次表のとおり減免を行っています。

なお、この制度は本学奨学生選考委員会の選考を経て、年度ごとに採用されるものです。そのため、前年度に奨学生であっても、学業成績や競技成績等により奨学生選考委員会で選考した結果、翌年度は奨学生ではなくなる場合があります。予めご了承ください。

No.	名 称	対 象	免 除 す る 費 目		申 請 時 期 等
1	特別奨学生A	競技成績優秀者 [体育学部] [スポーツ文化学部] [スポーツマネジメント学部] [児童スポーツ教育学部] ※児童スポーツ教育学科・児童スポーツ教育コースのみ対象	1年次	「入学金」、「授業料」、「施設整備費」、「教育充実費」の全額	申請不要(学費納付時に該当者に通知)
			2～4年次	「授業料」、「施設整備費」、「教育充実費」の全額	
2	特別奨学生B		1年次	「入学金」、「施設整備費」の全額	
			2～4年次	「施設整備費」、「教育充実費」の全額	
3	一般奨学生	入学試験(総合型選抜基礎学力方式)合格者の上位の者 [保健医療学部]	1年次	「入学金」	申請不要 (学費納入時に該当者に通知)
		学業成績優秀者(1年次前学期GPA等) [体育学部、スポーツマネジメント学部、児童スポーツ教育学部]	1年次	「入学金」、「施設整備費」	申請不要 (1年次前学期成績確定後に通知)
		学業成績優秀者(1年次前学期GPAおよびTOEIC IPテスト等) [スポーツ文化学部]			
		学業成績優秀者(前年度GPA等) [全学部]	2～4年次	「施設整備費」、「教育充実費」	申請不要 (学費納入時に該当者に通知)

No.	名 称	対 象	給 付	申 請 時 期 等
1	メイドー・MCS・長谷川奨学金 (2、3、4年次)	課外活動等の大学生活において目標に向けて強い志を持って取り組んでいる者	25万円	前年度後学期に申請 (1、2、3年次に申請)
2	雄渾奨学金	奨学金の貸与を受けている者でかつ経済的に困窮し修学困難な者	20万円	毎年次9月～10月頃

4. 学費減免制度

本学では、学費納付者の負担軽減を図るために学費減免制度を設けています。詳細は以下のとおりとなります。

対 象	免除する項目	申請時期等	備 考
同一の扶養者により扶養されている兄・姉が本学に在学する入学生(双子入学の場合はどちらか1名)	「入学金」	入学した年度の6月末まで	
日本学生支援機構等、奨学金の貸与を受けても、なお学費納入が困難で学業成績が平均水準以上の者(2、3、4年次)	後学期「施設整備費」・「教育充実費」(単年度採用)	毎年次7月	採用枠あり
1年以内に家計急変があり日本学生支援機構奨学金を併用してもなお学費納入が困難な者	当該学期「施設整備費」・「教育充実費」(単年度採用)	随時応相談	

5. 国による高等教育の修学支援新制度

(文部科学省HP: <https://www.mext.go.jp/kyufu/student/daigaku.html>)

2020年4月からスタートした高等教育の修学支援新制度は、一定の学業基準、家計基準を満たせば、授業料等の減免や日本学生支援機構の給付奨学金が受けられる制度です。この制度による支援を受けるには、まず日本学生支援機構給付奨学金に申請が必要です。採用された日本学生支援機構の給付奨学金の支援区分により、授業料等の減免額も決定されます。

なお、大学での取り扱いにつきましては、出願時に「大学等奨学生採用候補者決定通知【提出用】」のコピー（白黒可）を提出した場合、入学手続き時に授業料等を減免した納付書を発行します。申請中の状態である場合は、所定の金額を納入していただき、入学後に減免額を還付します。還付時期等につきましては、日本学生支援機構給付奨学金の採用者説明会（5～6月予定）にてお知らせします。

■ 支援内容	1. 授業料・入学金の減額 2. 給付型奨学金の支給（日本学生支援機構）
■ 支援対象	住民税非課税世帯及びそれに準ずる世帯の学生 ※ 支援を受けられる年収目安と支援額は、日本学生支援機構ホームページにてご確認ください。 日本学生支援機構 進学資金シミュレーター https://www.jasso.go.jp/shogakukin/oyakudachi/shogakukin-simulator.html 
■ 申請方法等	日本学生支援機構奨学金（給付）申込手続きを行ってください。採用者に対しご案内します。

6. 寮 案 内

（1）主 旨

学生寮は学生の経済的負担を軽減するための厚生施設であるとともに、共同生活を通して相互の親睦を深め、社会人・体育人としての基礎的教養を身につけ、実りある学生生活を送るよう、指導・助言にあたっています。

（2）施 設

寮 名	建物構造	部屋数	総定員数	所 在 地
深 沢 寮（男子）	鉄筋6階建	69 室	256 名	東京都世田谷区深沢5-12-17
和 泉 寮（女子）	鉄筋3階建	125 室	250 名	東京都世田谷区中町5-10-17
健 志 台 寮（男子）	鉄筋4階建	132 室	492 名	神奈川県横浜市青葉区鴨志田町字上谷戸946-2
健 志 台 桜 寮（女子）	鉄筋5階建	80 室	132 名	神奈川県横浜市青葉区鴨志田町550-1

冷暖房完備で洗濯機、乾燥機及びセキュリティボックス等が設置されています。

（3）申込条件

寮別の申込条件は、以下のとおりです。

寮 名	申 込 条 件
深 沢 寮（男子）	学友会団体に所属が未定の方も入寮の申し込みができます。
和 泉 寮（女子）	学友会団体に所属が決定している方のみ入寮の申し込みができます。
健 志 台 寮（男子）	学友会団体に所属が未定の方も入寮の申し込みができます。
健 志 台 桜 寮（女子）	横浜・健志台キャンパスを拠点として活動する学友会運動部、もしくは公認団体の競技部門に入部希望の方が優先的に申込みます。 なお、保健医療学部の学生は入部を希望しなくても申込みます。ただし入寮手続きが多い場合は希望に添えないことがあります。

(4) 費用 (令和7年度参考例)

寮 名	入寮費	食 費	寮 費 (月額) ※ 光熱水費含む	年 額
深 沢 寮 (男子)	20,000 円	1,620 円 / 日 (3食) ※ 春季・夏季・冬季休業時の提供なし	32,000 円	846,320 円
和 泉 寮 (女子)				
健 志 台 寮 (男子)	20,000 円	1,680 円 / 日 (3食)	33,000 円	984,380 円
健 志 台 桜 寮 (女子)	20,000 円	1,100 円 / 日 (2食) ※ 昼食・日曜の提供なし	1 人部屋 52,000 円 2 人部屋 36,000 円	974,000 円 782,000 円

入寮費は、初回時のみ徴収します。また、更新時に 10,000 円徴収します。

(5) 申込書類 (学生寮案内及び入寮手続き書類)

合格者を対象にご案内する「合格者専用サイト」に掲載致します。

(6) 問い合わせ先

深沢寮・和泉寮 TEL 03-5706-0904

健志台寮・健志台桜寮 TEL 045-963-7905

事務取扱時間：月曜～金曜 8:30～17:00



◆ 入学者選抜に関するお問い合わせ先 ◆

日 本 体 育 大 学 アドミッションセンター

東京・世田谷キャンパス

〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1

TEL 03-5706-0910(直通) FAX 03-5706-0819(専用)

事務取扱時間：月曜～金曜 8:30～17:00

夏季一斉休業期間：2025年8月9日(土)～2025年8月17日(日)

冬季一斉休業期間：2025年12月27日(土)～2026年1月5日(月)

本学ホームページ <https://www.nittai.ac.jp/>

入学者選抜に関する緊急情報
<https://blog.nittai.ac.jp/nyushi/>



※ 試験当日の緊急情報（交通機関の乱れによる試験開始時刻繰り下げ対応等）も
上記アドレスで確認できます。